

# グラフィックを用いた音楽の創作実践

—タブレット端末の効果的な活用を目指して—

上出美希（三宅村立三宅中学校 教諭）

進行：脇山 純 書記：田中功一（文責）

三宅中学校では2014年9月より、全生徒・教職員にタブレット端末 iPad を導入する ICT 活用教育が開始され、生徒の学ぶ力を高める指導法のあり方をテーマとした校内研修が進められてきた。そして、音楽科の創作や歌唱の授業においてもタブレット端末の活用に取り組んだ。本発表では、図形楽譜とタブレット端末のソフトウェアを活用したグラフィックな音楽創作の授業実践について報告する。

一般的に創作活動はこれまでの学習経験を生かした表現活動であるため、学習経験が十分でない状況において、生徒が自分の思いを自由に表現することは難しいと考えられる。したがって、表現手法を楽譜よりも視覚的な手法を用いることにより、生徒の創作活動はよりスムーズに進められると考えられる。本実践では3年前より図形楽譜を用いた創作活動を行ってきた。図形楽譜は演奏において即興性や偶然性に特長があるが再現性において難点が見られる。そこで、自分がつくった音楽を保存し再現するため iPad を活用して授業を進めた。ソフトウェアはペイント ibisPaint X、音楽作成 GarageBand、動画作成 iMovie 以上を使用した。生徒は自分だけの作品を創ることで創作の楽しさを知り、そのことが生徒の創作意欲の向上につながる。また、他の楽曲を演奏し鑑賞する際に、楽譜に記された意味について考え、曲の構造を理解して聴くことにもつながるため、音楽表現全体の意欲の向上につながると考えた。

3年前の実践の1年目では、ワークシートを使用してサウンドスケープによる自然音を図形楽譜で表す活動を行った。これは聴こえてきた自然音に対して楽器を選び表現する活動である。結果は、生徒が使いたい楽器が重複したため、類似した表現が見られた。また、音楽室内の楽器選択に際して奏法が分かる楽器を選択したため、表現の広がりや欠いた。さらに、次の授業で図形楽譜はあるものの、音が特定できず、音を想像して演奏する場面や一枚の静止画から音を作り出すことが難しい場面が見られた。これらの結果から、図形楽譜の使用法の工夫が課題となった。この課題解決として、2年目は動画を使用した振り返りにより、楽器を選び、図形楽譜を描き、どのように演奏したいか考えるようにした。結果は単調な場面が反復する同じ動画を視聴したため、個性が見られない類似した表現が多く見られた。そして3年目の6月に、本実践「図形楽譜を使って音やイメージを表現しよう」を題材名とし、中学1年生12名を被験者として実施した。

この題材の目標を次の1)~2)とした。すなわち、1)音素材の特徴を感じ取り、自分のイメージと関連付けて、音楽を表現する活動に意欲的に取り組む。2)イメージに合った音素材を選択し、その奏法を工夫することができる。3)

音素材の奏法を工夫し、自分の思いや意図を図形楽譜に表現し、音楽をつくることができる。

授業は4時間構成とし、1時間目はテーマ「自分の好きなもの」を提示した。ペイントソフトを使用して図形楽譜を書いた。生徒はペイントソフトに使い慣れていた。2時間目は音楽作成ソフト GarageBand を使用して音作りを行った。生徒は音素材を選択し、自分のイメージに合う楽器を選んで制作を行った。ワークシートには奏法を工夫した様子を記入した。最後に録音機能を用いて制作した音楽を記録した。（研究発表ではバイオリンの弦を弾く音やピッチカートなどが再現された。）3時間目は動画作成ソフト iMovie などを使用して音楽と図形楽譜の画像を合わせる活動を行った。4時間目は各生徒が作った作品をクラス内で発表した。

全12名の作品の演奏時間は7分となった。具体的な特長とテーマを示すと、丸印で表現した「夜の星」、カラフルな「パフェ」、嵐の場面を工夫した「雨と蛙」、楽しさと暗さを音に表した「サンバ」、山の高さを音高で表現した「高い山」、「鏡と重なる光」、数学を担当する「山口先生」、魚を黒丸で表した「海」、犬の心の変化を表した「犬」、気持ちの落ち着かない様子を低音で表した「思春期・青春」、短音と長音に特徴ある「花」である。これらは3つのソフトウェアを使って仕上げた作品である。（研究発表では実際に上映された）

本実践の成果、及び生徒の感想、改善点などを次に示す。

1)創作活動に対する意欲が高まり

感想：制作は難しかったが達成感が得られ楽しかった。

改善点：制作をより平易にする工夫

2)イメージに応じた音色の選択や奏法の工夫

タブレットの機能を活かすことができた。

3)音楽の要素(リズム、強弱、速度)や構成の工夫

結果：達成できた生徒が多かった。

4)音楽とグラフィックの関連性への興味

他領域への関連づけができた。

5)タブレット端末の活用方法の習熟

創作活動が時間を短縮して行うことができた。

今後に向けて、1)テーマ設定の工夫として、テーマを絞ること、思考の道筋を示すことが検討できる。2)音楽の構成力の育成として、ワークシートを分かりやすく示し、構成を主体的に考える支援方法の検討が考えられる。今回は教員として3年目の実践報告をまとめた。今後は、実践を通して生徒が楽しめる創作活動を目指した授業を考えていきたい。